

造影検査を受けられる患者様へ

- ・検査名：CT MRI 胆道造影 尿路造影 その他（ ）
- ・部位：頭部、頸部、胸部、腹部、四肢、脊椎、その他（ ）

【造影剤の説明】

検査当日、あなたが受ける検査では、ヨード系造影剤あるいはガドリニウム造影剤という検査薬を使います。造影剤はより正確な診断をするために用いますが、下記に示すような副作用が起こることもあります。

●軽い副作用：吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、くしゃみ、発疹、注射部位の痛みなどです。これらは治療を要さないか、1～2回の投薬や注射で回復するものです。このような症状が発生する頻度は、100人につき5人以下です。

●重い副作用：呼吸困難、意識障害、ショックなどです。このような副作用は、特別な救命処置と入院が必要で、場合によっては後遺症が残る可能性があります。このような重篤な副作用が発生する頻度は、2万5千人につき1人です。

●遅発性副作用：検査終了数分後から数日にかけて副作用（発疹、掻痒感、吐き気、脱力感、むくみ、めまい）が現れることがありますが、通常は自然に回復します。

●病状・体質によっては約40万人につき1人の割合で、死亡する場合があります。

●造影剤を注入するときには、体が熱くなることがありますが、造影剤による一時的な刺激であり心配ありません。

●検査では、造影剤を機械により自動的に注入するために、血管外に一部の造影剤が漏れることがあります。注射した部位が腫れたり、痛みを伴う事もあります。ほとんどの場合は時間がたてば自然に吸収されますので心配ありませんが、漏れた量が非常に多い場合には処置が必要となることもあります。

●当院では、これらの長所、短所をよく考えた上で、造影剤を使用した方が患者様にとって有益と判断した場合、造影検査を患者様にお勧めしています。

●造影剤を使用しない場合には、病気の種類によっては、それぞれの画像検査において病気が検出されなかったり、診断に迷ったりする可能性があります。造影剤を使用しない検査法に代わる検査としてMRIや超音波検査といったX線を用いない検査や、造影剤を使用しないCT検査などの画像検査があります。各々の検査法の利点や欠点は病気の種類によって様々ですので、不明な点があれば医師にご相談ください。

患者様には造影剤の必要性和危険性をよく理解して頂いた上で安全に検査を行うために、裏面の問診票にお答え頂いております。